



明正ゼミナールだより

2025年

— 10月号 —

夏の暑さもようやく落ち着きを見せてきました。教室にも少しずつ秋の空気が流れ込んできています。

さて、今日は「変わること」についてお話ししたいと思います。『進化論』で有名なダーウィンの言葉に、こんなものがあります。「最も強いものが生き残るのではない。最も賢いものが生き残るものでもない。生き残るのは、変えることができるものだ。」強さや頭のよさよりも、「変化できる力」が大切だ、という意味ですね。

考えてみれば、勉強も同じです。小学生の時の勉強の仕方を中学生になっても続けていたら、だんだん通用しなくなります。中学から高校でも同じです。ノートの取り方、暗記の仕方、計算の工夫、授業の受け方……。少しずつ変えていかないと、壁にぶつかってしまうのです。

でも、人は「変わること」がとても苦手です。「今までのやり方で何とかなるんじゃないか」「このままでも、そこそこ点数は取れているから大丈夫」と、ついついそんな風に思ってしまう。何かを変えるより、現状維持の方が楽だから。

ところが、世の中の大きな流れは待ってくれません。高校受験や大学受験の制度もどんどん変わっていますし、社会に出てから必要とされる力も変化しています。いま話題になっている政治の世界だって、「変わらなければいけない」と誰もが思っているのに、なかなか変わらない。これこそ、「変化の難しさ」の典型と言えるでしょう。

だからこそ、私たちは今という時間を過ごす時、「過去の自分」ではなく「未来の自分」に目を向ける必要があります。昨日の自分に合わせて今日を生きるのではなく、明日の自分をつくるために今日を生きる。ほんの小さな変化でいいのです。単語を覚える方法を少し変えてみる。授業中のメモを整理してみる。家でのスマホの使い方を工夫してみる。こうした小さな変化の積み重ねが、あなたの未来を大きく変化させていきます。未来の自分にバトンを渡すのは、いまの自分しかいません。未来の自分は、過去の自分に文句を言えないのですから。

…と、偉そうに書いてきましたが、実は私自身もなかなか変わりません。「健康のために運動を始めよう！」と決意するのですが、公園でのウォーキングも、ゴルフの打ちっぱなしも、暑さにかまけて続きませんでした。そこで、7月からフィットネスに通うことにいたしました。室内で、私の好きな24℃で運動できるので、今のところ何とか続けています。おかげで、体力がついていて、暑さに負けエネルギー切れすることなく、楽しく授業ができています。暑くても、寒くても、いつも元気に楽しく授業ができる、そんな「未来の自分」をつくるため、暑さに耐えて運動するのではなく、暑さを避けて運動をする、と私はこの夏行動をひとつ変化させました。あとは、継続あるのみ、ですね。

連絡事項

10/13(月) 祝日のため 全クラス休塾

